

「防衛大学校主導型教授派遣事業」を活用した模擬授業を実施



自衛隊茨城地方協力本部（本部長・栗秋健士）空佐）は、令和6年9月19日（木）県立日立第一高等学校が主催する中高合同ホームルームセミナーにおいて「防衛大学校主導型教授派遣事業」を活用した模擬授業を実施した。中高合同ホームルームセミナーは、防衛大学、筑波大学、東北大学、宇都宮大学、茨城大学など計8大学の各学校教授や准教授が参加して模擬授業が実施された。防衛大学校教授は、昨今話題性のある「人工知能入門」の題名で模擬授業を2回実施した。大変好評であり、生徒数も各講座35名定員のところ、第1回次33名、第2回次35名であった。

模擬授業に参加した生徒達はもちろんのこと、進路指導担当教諭からも「大変分かり易く、高校生の興味を掻き立てるような内容であり、大変貴重な時間でした。」と話していた。

茨城地本は、このような機会があれば積極的に教授派遣による模擬授業を活用し、相乗効果として、防衛大学校への理解の促進と受験希望者増加を図り、他の進学校においても、積極的に教授派遣による模擬授業の開催を促進し、防衛大学校を身近に感じてもらう。この積み重ねによって、受験希望者及び入校者の増加を図っていく。

「あつまれ！はたらくくるま」で自衛隊をPR



自衛隊茨城地方協力本部龍ヶ崎地域事務所（所長・逆井一陸尉）は、9月23日にあみプレミアム・アウトレットで開催された「あつまれ！はたらくくるま」に参加した。

今回は、土浦駐屯地の支援による装備品展示（軽装甲機動車、高機動車、偵察バイク）、VR体験コーナー、募集相談コーナーを開設し、イベントは去年を上回る来場者で賑わった。

特にVR体験コーナーは、イベント終了時間まで長い列ができるほど大盛況で、ゴーグルを着用し右を見たり左を見たりとブルーインパルスのパイロットになった気分を体験し、ブースは盛り上がりを見せた。

龍ヶ崎地域事務所は、今後も積極的に地域のイベントへ参加し、たくさんの方に自衛隊をもっと身近に感じてもらう、一人でも多くの方が自衛隊という職業を目指してくれるよう活動していく。

